

入院患者流出のイメージ

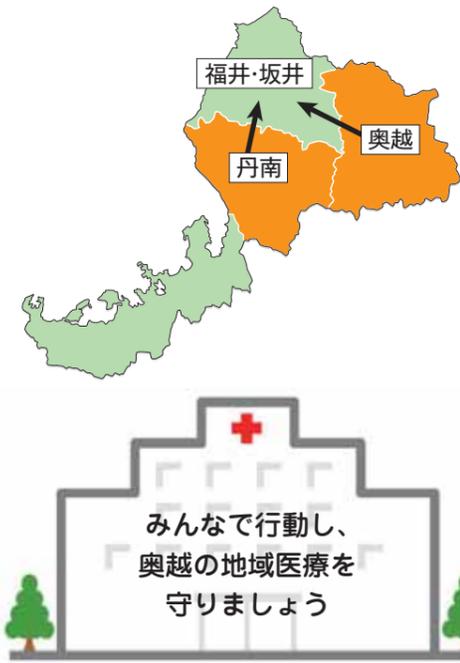


表1 平成23年福井県患者調査

二次医療圏	人口 (H24.4)	流入率	流出率	類型
福井・坂井	407,322人	22.9%	2.4%	流入型
奥越	59,342人	1.9%	46.0%	流出型
丹南	189,567人	5.9%	28.9%	流出型
嶺南	143,866人	8.9%	13.5%	自己完結型

● **みんなで守る地域医療**

また、奥越で出産できる体制を再構築する取り組みもますます困難になります。このままだと将来的に地域医療の崩壊に繋がることも懸念されます。

奥越の二次医療圏を残すためには、平成24年度中に県が策定する第6次福井県保健医療計画に明記されなければなりません。また、現在46%と高い入院患者の流出割合を改善する必要があります。

そのためには、市民一人ひとりが市内にかりつけ医を持ち、一般的な入院・治療は奥越地域で行うという行動が奥越二次医療圏を守ることになるのです。

地域医療の現状について考える

～奥越の地域医療は今～

国は、入院医療を提供する地域の区割りを全国的に見直そうとしています。奥越地域も見直しの対象となっています。これにより今後の地域医療がどうなるのか現状を踏まえながら、簡単にまとめてみました。

地域医療の現状について知り、今後の医療のあり方および市民が地域医療を守るために、どのような行動が必要なのか考えていただくために、地域医療推進シンポジウムを開催します。ぜひご参加ください。

地域医療推進シンポジウム

～あなたが守る奥越の医療～

とき ▶ 7月21日(土) 午後7時～9時 (申込不要、聴講無料)

ところ ▶ 奥越地域地場産業振興センター 2階 大ホール

基調講演

演題 ▶ 「地域に“寄りそ医”20年」

～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～

講師 ▶ おおい町国保名田庄診療所 所長 中村 伸一 氏

※NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演された、地域医療の第一人者



パネルディスカッション「勝山市の医療の現状と今後について」

コーディネーター ▶ 中村 伸一 氏

パネラー ▶ 勝山市医師会 若林 正三郎 会長
 福井社会保険病院 藤田 学 副院長
 市民代表 竹島 多恵子 氏
 勝山市 山岸 正裕 市長

健康長寿課(すこやか内) ☎87-0888



一次医療圏	初期の診断・治療を担う	市町村単位
二次医療圏	一般的な入院・治療を担う	複数の市町村
三次医療圏	高度・特殊な医療を担う	県全域

*医療圏とは医療を提供していくための区域のことです

● **二次医療圏とは？**

二次医療圏とは、複数の市町村を単位とした一般的な入院・治療を担う範囲です。現在県内には、福井・坂井、奥越、丹南、嶺南の4つの圏域があります。

● **国の方針**

国は、3月末に社会保障改革の一つとして各都道府県が策定する医療計画について、今後の方針を発表しました。それによると、人口規模が概ね20万人未満で、入院患者の流出割合(地元以外へ入院)が20%以上、流入割合(地元以外からの入院)が20%未満の地域は、二次医療圏の設定の見直しを検討することとし、全国で75圏域が対象となりました。県内では奥越と丹南がその対象となりました。(3ページ表1参照)

● **奥越はどうなる？**

国の方針に従うと、奥越は二次医療圏から外れて、同じく見直し対象の丹南地区とともに福井・坂井地区に併合されます。つまり、嶺北で1つの大きな二次医療圏になるのです。

大きな二次医療圏に組み込まれると、人口密集地が優遇され、奥越における入院ベッド数が減らされたり、医師が減少したりする恐れがあります。